

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2020年
5月8日
第88号

ヒヨス（ナス科）

第一圃場にロート形の灰黄色で中央部が暗褐色の、普段はあまり目にしない花が見られます。毒草なので、日本では薬用植物園などの一部の施設で展示用に栽培しているだけのようです。しかし、原産地のヨーロッパをはじめ、熱帯、極地を除いた世界各地で普通に栽培されてるようです。乾燥した地上部をそのまま向精神薬、麻酔薬として使用したり、タバコに配合して吸引したり、ビールや茶飲料の原料としていた歴史はありますが、基本的に毒草、アルカロイドのヒヨスチアミンやスコポラミンを含み、現在では硫酸アトロピンや臭化水素スコポラミンの製造原料として利用されます。

これらのアルカロイドが引き起こす浮遊作用、幻覚作用は、ハリーポッターシリーズや、魔女の「空が飛べる軟膏」レシピとして出て来ますね！

ヒヨスの中国語名は莨菪、その種子が天仙子という中薬になりますが、日本語での莨菪（ロウトウ）はハシリドコロ（中国語では日本莨菪）を指し、その根がロートコンという生薬になり、鎮痙薬として使用されます。



スズラン（クサスギカスラ科）

第三圃場で鐘状の白い小花を数個付けている清楚な姿が見られます。名前はこの姿の形状によります。栽培しているのはヨーロッパ原産のドイツスズランという変種ですが、現在では日本に自生するスズランと同じ種として統合されています。ドイツスズランは、日本自生のものより丈夫で、花も数多く付き、花茎が葉と同じくらいになるので、見分けが付きやすいですけれどね。

全草に有毒成分の強心配糖体を含み、嘔吐、めまい、呼吸麻痺などを起こすので、絶対に口には入れないでください。葉がギョウジャニンニクと似ていることからそれと誤食したり、スズランを挿した花瓶の水を乳児が飲んで中毒事故を起こしたことがあります。

かつては根茎を鈴蘭根（スズランコン）と呼び、強心利尿薬として用いていたらしいのですが、毒性が強く、現在は使用しません。

今、こんな草木が
楽しめます！！